

令和6年8月9日
302会議室

令和6年第15回 立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

令和6年第15回立川市教育委員会定例会

1 日 時 令和6年8月9日(金)
開 会 午後 1 時 30 分
閉 会 午後 3 時 21 分

2 場 所 302 会 議 室

3 出席者

教育長	栗 原 寛	
教育委員	石 本 一 弘	伊 藤 憲 春
	小 柳 郁 美	堀 切 菜 摘
署名委員	石 本 一 弘	

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長	齋藤 真志	教育総務課長	臼井 隆行
学校施設建替担当課長	鈴木 信貴	学務課長	澤田 克己
指導課長	佐藤 達哉	主任指導主事	片山 伸哉
統括指導主事	野津 公輝	教育支援課長	高橋 周
学校給食課長	青木 勇	生涯学習推進センター長	庄司 康洋
図書館長	黒島 秀和		

5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課庶務係	和田 健治	齋藤 綾乃
----------	-------	-------

案 件

1 協議

- (1) 「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について
- (2) 令和7年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について

2 その他

令和6年第15回立川市教育委員会定例会議事日程

令和6年8月9日

302会議室

1 協議

- (1) 「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について
- (2) 令和7年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について

2 その他

◎開会の辞

○栗原教育長 ただ今から、令和 6 年第 15 回立川市教育委員会定例会を開催いたします。

署名委員に石本委員、お願いいたします。

○石本委員 はい。

○栗原教育長 よろしくをお願いいたします。

本日は、協議 2 件でございます。その他は議事進行過程で確認をいたします。

次に、出席者の確認を行います。齋藤教育部長、お願いいたします。

○齋藤教育部長 本日、第 15 回立川市教育委員会定例会への出席管理職でございます。教育部長、教育総務課長、学校施設建替担当課長、学務課長、指導課長、片山主任指導主事、野津統括指導主事、教育支援課長、学校給食課長、生涯学習推進センター長、図書館長、以上でございます。

◎協 議

(1)「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について

○栗原教育長 それでは、1 協議 (1)「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について、に入ります

臼井教育総務課長、説明をお願いいたします。

○臼井教育総務課長 それでは、(1) についてご説明いたします。

6 月 27 日の第 12 回定例会において、点検・評価 (案) について、ご協議いただき承認をいただいたところですが、その後、3 名の点検評価外部員と点検・評価 (案) について意見聴取を実施いたしました。意見聴取については、部課長との意見交換会を開催した上で最終的なご意見を頂戴しました。頂いたご意見について説明いたしますので、資料の 55 ページ、点検評価外部員の知見の活用をご覧ください。

1. 意見交換会の開催です。意見交換会については 7 月 8 日の午前 10 時から約 2 時間市役所会議室にて開催しまして、点検評価外部員 3 名と教育委員会事務局の部課長 11 名が出席いたしました。

次の 56 ページからは、2. 点検評価外部員の意見としまして、意見交換会を踏まえ、後日、各点検評価外部員から頂いた意見を記載しております。多くの意見を頂戴していますので、それぞれの総括の部分を読み上げる形でご報告をさせていただきたいと思います。

まず、(1) 教育委員会活動でございます。

点検評価外部員は、東京学芸大学の末松准教授です。末松准教授からは、総括として、「多様な市民の意向を教育行政に反映するために、『市民に開かれた教育委員会』や『市民に対する説明責任』などが特に重視されており、効果的・効率的な教育委員会の運営に向けた着実な取り組みが確認できる点は評価できる。特に会議の公開、審議案件・議事録の速やかな公

開という点では近年ホームページ等も活用して丁寧な情報提供が継続できていると言える。

また、新市長となってからも、各種の協議・調整を滞りなく行うための工夫や意識が確認できる。さらに、多様化する教育課題に対応できる幅広い視点を教育行政関係者が保持・形成できるように、本市が課題と捉えるテーマを対象に、最新の知識・知見を深めるための各種研修や、学力向上や立川市民科の充実に向けた各学校の取り組み状況について学校訪問を行っているほか、教育施設等視察の実施も計画的に行われ、教育委員会の基本方針や基本施策にそれらが丁寧に反映されている」という意見を頂いております。

続いて、同じページの下（２）第３次学校教育振興基本計画でございます。

点検評価外部員は同じく末松准教授で、総括としては、「学びや発達の継続性・連続性が特に重視されており、『授業がよく分かる児童・生徒』の割合が85.5%となっている点や、『毎日楽しく学校に通っている児童・生徒』の割合が86.4%となっている点は、これまでの計画的・継続的な各取り組みの成果が現れてきていると言える。近隣の施設・大学等との連携についても、これまで以上の深まりが確認でき、食育や自己管理能力をはじめ、民間企業の経営手法も活用した効率的な学校給食の提供、特別支援学級運営の充実、不登校傾向の児童・生徒への手厚いサポートなど、学校だけでは解決が容易ではない問題も含めて、さまざまな取り組み・工夫が確認でき、中長期的な視野に基づく着実な各施策が確認できる。

教職員の働き方改革やメンタルヘルス等のサポートについても重視されており、児童・生徒に向き合う時間の確保のための校務支援システムの導入など、現代的な課題についても先進的な取組が確認できる。今後も様々な地域資源を活用して、短期的な成果にとどまらずに、5年後、10年後も見据えた着実な取り組みを継続してほしい」という意見を頂いております。

続いて、58 ページをご覧ください。下のほう（３）第６次生涯学習推進計画でございます。

点検評価外部員は、白梅学園大学の朝岡教授です。朝岡教授からは、総括として、「次第にWi-Fiを含む施設のオンライン環境が整備されてきたことを受けて、それを活用した事業や広報の取り組みが着実に進められていると評価できる。しかしながら、社会におけるDX技術の進歩は目覚ましく、従来から行われてきた受付等のオンライン化やSNSを活用した事業の発信だけでは学習者＝市民の多様な学習ニーズに十分に 대응することができなくなりつつある。その意味では、さらに生成AIの活用を含む新たな事業の模索が求められている。

また、『地域学校協働本部事業』に代表される学校との連携や、家庭教育への支援を効果的に進めるためにも、学校教育振興基本計画における『学校運営の充実』『教育環境の充実』『ネットワーク型の学校経営システムの構築』『児童・生徒の安全・安心の確保』等の項目も視野に入れた学社融合型の施策の推進が求められている」という意見を頂いております。

続いて、59 ページをご覧ください。中ほどの（４）第３次図書館基本計画でございます。

点検評価外部員は、東京学芸大学の今野講師です。今野講師からは総括として、「図書・視聴覚資料や地域・行政資料の計画的な収集・保存やレファレンスサービスの充実といった、多くの公立図書館で見られる基本的なサービスに地道に取り組むとともに、必ずしも全ての公立図書館で行われているわけではないデジタルアーカイブ化、ビジネス支援、電子図書館

事業なども行われていることは評価できる。

近年の公立図書館においては、前述のデジタルアーカイブや電子書籍提供などの非来館型サービスへの、利用者側からの需要の高まりもあるだろうと思われるため、今後もそうしたサービスは着実に継続していただきたい。各館が実施している展示やイベントも、近年、公立図書館において意識されるべき認知症患者支援につながるものもあり、時宜（じぎ）に適（かな）った内容であると思える。また、専門研修においても、読書バリアフリーなど、近年、公立図書館が意識すべきテーマに関連した内容のものが実施されており、適切であると思う」というご意見を頂いております。

続いて、60 ページをご覧ください。中ほどの（５）第４次子ども読書活動推進計画でございます。

点検評価外部員は今野講師でございます。総括として、「読み聞かせ入門講座やブックリスト配布、おはなし会、団体貸出等の学校への支援や連携など、公立図書館が行うべき基本的な児童サービスが網羅的に実施されている。さらに、外国語絵本の巡回展示やハンディキャップ資料の収集など、児童サービスの面においても、公立図書館によるマイノリティー支援がしっかりと意識されていることが伺える。

学校図書館においても、近年は電子書籍の導入など、デジタルな読書環境の整備の必要性が一般的に指摘されているため、こうした側面からも、より一層学校図書館の読書環境を整備していただきたい。同時に、学校図書館において、紙媒体の資料についてもより一層の充実を図るとともに、支援指導員の配置などの人的な支援も、今後も継続していただきたい」という意見を頂いております。

続きまして、点検評価外部員の意見等を踏まえまして、事務局において再度記載内容や、評価区分を確認いたしました。また、表記が誤っていた箇所や表現を見直した箇所もございますので、こちらの修正箇所も併せてご説明いたします。

なお、修正した箇所には下線を引いております。

まず、資料の 11 ページをお開きください。

2. 教育委員会と市長等との連携に関すること、3. 取組状況と成果と課題、の課題の 1 行目です。中ほどの「市長と教育委員会による」の「による」に下線を引いております。もともとは「市長と教育委員会が」という文章を「による」に修正いたしました。

続いて、34 ページをご覧ください。

34 ページの修正箇所については、指標の下の※を簡潔にした形での表記とさせていただきます。

続いて、42 ページをご覧ください。

令和 5 年度実績の 2 つ目の○のところでございます。もともとは「国会デジタル化資料」ということで正式名称でありませんでしたので、正式名称、「図書館向けデジタル化資料送信サービス（国立国会図書館デジタルコレクション）」に修正をいたしました。

続いて、44 ページをお開きください。

こちらは、真ん中下あたりの、○イベント等の表の2つ目の柴崎図書館でございますが、「見る将棋入門」の「棋」の文字が入っていませんでしたので、追加しております。それから、44 ページ一番下の※のところでございます。もともとは「AV は一般に含める」だったものを、「AV の展示は一般に含める」としました。

続いて、53 ページをお開きください。

53 ページは、主な取組と取組状況について、内容を分かりやすく整理いたしました。「中央図書館内におけるバリアフリー施設見学の実施」、それから取組状況では「小学3年生を対象とした中央図書館内におけるバリアフリー施設見学の実施」ということで、内容を少し見直して書き直しました。

修正箇所は以上でございます。今回の修正は、記載内容のみを修正しておりまして、評価区分については、全ての活動及び施策において修正はございませんでした。

長くなりましたが、説明は以上でございます。

○栗原教育長 説明ありがとうございました。これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

石本委員、お願いいたします。

○石本委員 質疑ではなくて、お礼の言葉になると思います。まず、ここに至るまで、何度も各委員から細かな部分についてご意見、ご指摘があったと思うのですが、そのたびに事務局の皆さんに丁寧に対応していただいて、出来上がった資料を改めて見させていただくと、すっきりと見やすく、私は教育委員になって今年で4年目ですが、今までで一番素晴らしい点検・評価ができたと思いました。巻末の点検評価外部員の方々のコメントもお読みして、このコメントも過去4年間で最高だと私は感じました。

本当にご苦勞をおかけしましたけれども、真摯に対応していただいて、ありがとうございました。以上です。

○栗原教育長 ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。

小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 質問が2つあります。

1つは、点検評価外部員の方々は、私たちがA、Bなどと付けた評価に対して同意だというように受け止めていいのでしょうか。実は、点検評価外部員によっては、ここはB評価、ここはA評価だという話があったりしましたかということが知りたいです。

もう1つは、コメントでもほとんどの点検評価外部員の方がいい評価をしてくださっていると思うのですが、この中でここはちょっと頑張してほしいという大きな課題があれば、そういうお話があったのであれば教えてほしいです。

以上2点です。

○栗原教育長 臼井教育総務課長、お願いいたします。

○臼井教育総務課長 まず、評価に関しては、ご質問という形で、これはなぜB評価なのかというようなご質問は受けましたが、B評価をA評価にしてはどうかという、そういった

強いご意見はございませんでした。ただし、指標等の数字に少し評価が引っ張られ過ぎてはいませんか、適切に事業は進められているので、それをもってA評価としてもいいのではないのでしょうか、というご指摘がありました。

もう1つ、内容についても特にここはこうしたほうがという課題的なお話はなかったのですが、ご意見として、今、教育部の管理職を見ていただくと分かるように、全員男性のため、女性ならではの視点など、そういったものが反映されていないのではないかなどのご指摘を頂きました

以上でございます。

○栗原教育長 ほか、いかがでしょうか。

伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 ご説明ありがとうございます。今、ご説明いただいたように、事務局案がB評価の施策、例えば58ページの一番上6.教育環境の充実のご意見の最後を見ると「急がずに中長期的な視点から慎重に各種の施策を継続・発展してほしい」とあります。A評価の施策では、確実に「高く評価ができる」という終わり方になっており、B評価の施策では「発展してほしい」となっている、これは、事務局の方がうまく説明をしてくださっているおかげではないかと思います。以前、紙の冊子をお渡しするのみで評価を頂いていた時には、何かずれているなと思うこともあったのですが、何年前からか覚えていませんけれども、意見交換会を開き、点検評価外部員の方に説明した上で評価を頂くという、丁寧な作業をしていたいているために、きちんとした点検・評価になっているのではないかとということで、お礼を申し上げたいと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

[「ありません」との声あり]

○栗原教育長 ほか、ないようでございます。

この件について、本日の協議は以上とさせていただきますして、次回の第16回教育委員会定例会で改めて議案として提案をしまして、点検・評価については確定させていきたいと考えております。そのような流れでよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○栗原教育長 ありがとうございます。それでは、本日の協議については、以上といたします。

◎協 議

(2) 令和7年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について

○栗原教育長 続いて、1協議(2)令和7年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、に入ります。

佐藤指導課長、説明をお願いいたします。

○佐藤指導課長 それでは、令和7年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、前回

の第14回教育委員会定例会でご報告をさせていただいたところですが、本日ご協議いただくにあたり、主な留意点について3点確認をさせていただきます。

1点目です。学校の教育活動において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながる教科書であるかどうか。2点目として、学習指導要領において示されている育成すべき資質・能力の3つの柱である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を育てることにつながる教科書であるかどうか。3点目として、本市の生徒また教員にとって、使いやすく、充実した学びにつながる教科書であるかどうか。以上、3点にご留意いただき、ご協議いただければと思います。

それでは、前回の本委員会でご報告させていただきました資料及び前回から今日まで教育委員の皆さまに調査していただいた結果、さらに展示アンケート結果等を参考に、この後ご協議いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○栗原教育長 説明ありがとうございました。では、教科ごとの協議に入る前に、今、佐藤指導課長から選定に当たっての留意事項の説明がございましたが、この説明に関して何か質問等ございましたら、まずお願いしたいと思っています。

〔「ありません」との声あり〕

○栗原教育長 それでは、留意事項については特段ご質問がございませんので、本日は教科ごとに各委員の意見を賜る形で進めてまいります。そして、次回第16回教育委員会定例会で協議をした後、改めて議案として提案し、令和7年度使用立川市立中学校教科用図書を採択してまいります。

それでは、まず国語からご意見を伺います。

石本委員からお願いいたします。

○石本委員 今、佐藤指導課長からお話がありましたけれども、選定検討委員会の報告、それから調査研究部会の調査結果、さらに展示アンケートと先生方のアンケート、以上の資料を見させていただいた上で石本の考えを申し上げたいと思います。

石本は、1番の東京書籍と4番の光村図書出版がいいのではないかと感じています。東京書籍は、細かな段階を踏んで、子どもたちの考えるためのヒントがとても工夫して、多く示されています。国語が苦手だなと思う子どもたちは取り組みやすいのではないかと思います。光村図書出版については、学びの手引などが1ページにまとまっていて、基本的な内容がとてもコンパクトでシンプルなところを、実際に拝見して感じました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 私も、光村図書出版がとても使いやすくていいのではないかと思います。ただ、三省堂、東京書籍も読ませていただくと、なかなかいいです。また小学校では東京書籍が使われているということもあり、東京書籍も捨て難いという気はいたしました。どこか1つ選ばないといけないということで、いつも苦しい選択にはなるんですけども、光村図書出版

を推したいと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございました。

続いて、小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 私は、まだ絞り切れていなくて、光村図書出版と東京書籍、加えて三省堂もいいと思っています。光村図書出版については、1年生の180ページに不便益についての読み物があるんですけども、そこに写真が掲載されているのが多分藤幼稚園だと思いました。もちろん、それだけではないです。絵が多いので、文字に抵抗のある子でも受け入れやすい教科書です。そして、思考の整理の仕方というのが最初に書いてあるのでいいと思いました。東京書籍については、朝井リョウ先生が教科書用に書き下ろした作品など、若い作家の方の作品が載っているのでもいいと思いました。三省堂に関しては、ページの最後に読書の広場というのがあって、本の紹介や読み物があるので、文学にもっと興味を持つよいきっかけになると思いました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございました。

堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 佐藤指導課長からの留意事項について、今日、16科目分、選定の理由を言わなければならないので、どういう基準で選んだかを先にお伝えしてもよろしいでしょうか。

○栗原教育長 結構です。

○堀切委員 そもそも教科書は、生徒と先生のためのもので、代表して選ばせていただくにあたって、どれを選んでも当然こちらが良かったというご意見は頂くことになると思います。なので、何でこれを選んだのかという基準を明確に説明できることが大事だと思って少し考えました。

1つは、この教科はこういう特性があって、子どもたちにこういう経験をしてほしいので、それを最も実現できる教科書はこれではないかということで一つは考えました。

もう1つは、もっと上位の目標で、より良い社会をつくることに貢献するのはどの教科書かということを考えました。

具体的には、先ほど佐藤指導課長からもありましたけれども、争いではなくて対話で解決する力が付くのはこれではないかということと、国連が出していますけれども、誰一人取り残さないという理想に近づける、これは前回の石本委員の立川市の子どもたちの実情に合ったものを選ぼうというところも含まれていると思うのですが、今申し上げた2つを基準に考えてきましたので、それを踏まえてお話ししたいと思います。

国語は、4者とも既に言語化されている情報を読み取るという力は同じように身に付くのではないかと思います。一方で、言葉の芸術性を一番体感できるのは光村図書出版ではないかと思います。言語化できない感覚が思春期にはすごくあると思います。そういう混沌とした状態に寄り添ってくれて、表現することも自分を理解する手掛かりになるよという、

希望を持てるようなメッセージがあったり、語彙ブックで具体的に言葉を探す手掛かりをしてくれたり、表現をしてみたいくなる仕掛けが随所にありましたので、光村図書出版がいいのではないかと私は思いました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。それでは、私からも、国語の私なりの選定のポイントについて少しお話をします。

各者ともそれぞれ扱っている作品は精選されております。その中で生徒が興味を持って取り組めるものはどれかということを1つポイントとしました。

2つ目のポイントとしては、学習の流れを説明するページがそれぞれございます。教材の前か後ろかという位置の問題、また分量の違いが各者でございます。私としては、分量についてはなるべくコンパクトにまとめられているものが学びやすいのではないかと考えております。

最後でございます。知識、技能、思考力、判断力、表現力等の観点で、1年間にどれくらいの割合で学習するか、これは各者冒頭で示しておりますが、どの発行者が生徒にとって分かりやすいものを提示しているか、そういったものも選定のポイントとしたところでございます。

私からは以上でございますが、皆さまも追加のご説明はよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○栗原教育長 では、次に進めます。次は書写でございます。

これにつきましても、石本委員より順番にコメントを頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

○石本委員 最初に教科書を手に取ろうとして大きいなと思ったのですが、教育出版のものが他者よりも大きかったと思います。東京書籍は、毛筆の「とん、すう、ぴた」という筆の運びの表現の仕方がとても分かりやすいと思いました。各者その点は工夫されているのですが、光村図書出版も「とん、すう、とん」という表記の仕方でしたけれども、硬筆からスタートしていて、資料がとても多く、先生は使いやすいかなと思っていて、以上の2者がいいと思っております。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

それでは、続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 私は、光村図書出版がいいと思っております。教育出版の手本として見やすいかどうかということは捨て難いところがありますし、東京書籍も行書の動きを学べる教科書というところに少し惹かれるところはあるのですが、全体的には光村図書出版がユニバーサルデザインフォントや硬筆の練習量も豊富であるというところで、光村図書出版がいいのではないかと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

それでは、続いて、小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 私は、2者に絞っていて、光村図書出版か東京書籍がいいと思っています。光村図書出版については、書写だけでなく、手書きの良さとはということを書いてある漫画が載っていたり、書体の使い分けなども書いてあり、いいと思いました。あとは、調査研究部会の調査結果にもあるのですが、硬筆と毛筆の学習内容が分かれているというのもいいと思いました。東京書籍については、見た感じが一番シンプルで使いやすいそうで、書き方の動画もあったので、甲乙付け難いと思っています。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 4者とも整った字が書けるということに関しては、すごく工夫されていると思いました。教科名が書写ですので、それで十分なわけですが、プラスで高校の芸術科の書道のほうにつながる要素が一番入っているのが光村図書出版と思いました。1つ目に、著名人の署名のようなものがたくさん挙げられているページがあって、整った字がいいという価値観だけではなく、書き手の個性や生き方、考え方が表れますよ、というところがあって、すごくいいと思いました。

2つ目は、石本委員がおっしゃったように、もう一者あったと思うのですが、行書などを書く時はやはりある程度スピードが必要なので、視覚的な説明だけでなく、「ぴょん、ぴょん、びた」とか「とん、すう、とん」といったように音で説明するようなものがあるのいいと思いました。筆の弾力を使うというところまで書いていたのは、多分光村図書出版だけだったと思うので、この部分で感覚的に分かる子は多いのではないかと、体で覚えるように教わっていく書道のやり方に大分近いと思いました。

3つ目は、QRコードで見られるのですが、書写体操というのが載ってまして、体というのは内臓が左右非対称ですので、だんだん座っているとねじれてきて、紙も書いているとねじれてくるお子さんが多いと思うのですが、書写体操は2つぐらいしか動きはないのですが、お尻の付け方、骨盤の座面の付け方が変わって、これはかなり理にかなっていると思い、私はとても気に入りました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。では、私からも書写の評価のポイントについて一言述べます。

まず、書写では、正しく文字を書くことだけでなく、文字や書体への興味を広げることも大切にしています。また、他教科と関連して学習できるかという点もポイントだと考えております。書写は、年間の時数が限られているために、教科書自体が硬筆の練習に使用できることや、毛筆の手本として使いやすいことなど、そういったものが求められているといったことをポイントとして考えたところでございます。

ほか、皆さまから追加でご意見等よろしいですか。

[「はい」との声あり]

○栗原教育長 では、次の教科に移ります。続いて社会（地理的分野）に移ります。

石本委員からお願いいたします。

○石本委員 とにかく各者とも写真がとてもきれいだと思ったのですが、その前に教科書が重いというのが正直な実感でございました。東京書籍は、単元構成というのか、どこも一貫性がある、だから、子どもたちは取り組みやすいのではないかと思います。あと、探究のためのステップというのか、段階を踏んだ学習なども単元の中の自分に合ったステップの仕方、そういう工夫があると思いました。

もう1つは、帝国書院は、とにかく写真も地図もきれいで、ページをめくっていくと見やすさ、私はすごく鮮明な感じがしました。あとは、まとめのところで、振り返り学習が見開き2ページですっきりしているので、先生方が授業をされる時に使いやすいのではないかとこの印象を持ちましたので、東京書籍と帝国書院の2者がいいように今は感じております。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 私は、まずは帝国書院がとても見やすく、これは感覚で、私が見やすいという意味ですけれども、とても見やすく感じました。ですから、子どもたちも教科書を見ている間に分かるような気がするのではないかとこのところがあります。東京書籍もなかなか捨て難くて、全体的に工夫がなされていていいと思いました。見やすいというのが大事だと思うので、圧倒的に帝国書院がいいと考えています。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

小柳委員、続いてお願いします。

○小柳委員 私は、帝国書院か東京書籍かで悩んでいます。帝国書院は目次が見やすく、先生の調査研究部会の調査結果にはなかったのですが、学習を振り返ろうというページがあって、そこからQRコードを読み込むと教材が出てきてワークシートなどが出てくるので、先生は楽なのではないと思いました。加えて、QRコードの下に、これは何の情報ですといったことが書いてあり、特に記載がない教科書もあるので、便利だと思います。東京書籍もまとめのページが分かりやすいと思ったのと、東北地方の地理のページを見たのですが、産業のグローバル化について言及化するなど、国内だけではない話をしているのもいいと思いました。あと、教育出版のQRコードの語句クイズが実は楽しくて、これは面白いと思いました。そのため、帝国書院と東京書籍、少し教育出版も含めて悩んでいます。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 私は、最初は東京書籍がとても知識事項が整理されていて、石本委員が流れに一貫性があるとおっしゃっていたのですが、そのため、知識を整理して記憶しやすく、読んでいくと比較の表のように頭に入っていくような感じがあります。そうすると、記憶しやすいし呼び出しやすいというのがあると思うのですが、そこまで考えて、私は、自分がこれを覚えて試験を受けるのだという学力観になっていると気づきまして、他者の教科書も見ってみました。そうしましたら、写真で眺めるというページは各者単元の前にあるのですが、帝国書院が、写真の選び方、アングルが、生活者目線のような感じや旅行している観光者のような感じで、こんなところがあるんだ、行ってみたいなとか、暮らしている人々の表情が見えるような写真が載っていて、こういうふうに住生活している人々がいるというのをフラットに感じられました。流れに一貫性というのはあまりないのですが、地域ごとの個性を書き出そうとか、写真で表そうとしている感じがとてもあり、立川市民科で学んできた子どもたちには帝国書院の教科書で学んでほしいなと少し思いました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。では、私からも社会（地理的分野）の選定のポイントについてお話をします。

地理的分野について大事にしていることは、主体的に社会の形成に参画する態度が養えること、諸地域に関して現代社会とのつながりや環境問題を取り上げていることと考えます。また、世界の地域、日本の地域、それぞれの特色が一目で捉えやすくなっているかどうかということも選定のポイントにしたところでございます。

皆さまから追加のご説明はよろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○栗原教育長 では、次の教科に移ります。続いて、社会（歴史的分野）でございます。

こちら石本委員よりお願いいたします。

○石本委員 東京書籍が各ページに年表が付いていまして、写真もとても鮮明で見やすく、取り組みやすい教科書なのかなと思いました。教育出版の年表も各章ごとにきちんとあるのですが、ページごとに付いているのはインパクトがあったと感じています。それから、帝国書院もやはり各ページに年表が付いていまして、いろいろな表示が出てくるのですが、それが鮮明で、もちろん写真もそうなのですが、すっきりしています。それから、興味を引くような囲み表示というのでしょうか。そういう工夫をされていて、以上の2者が特に私はいいと感じています。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 私も、東京書籍と帝国書院がとても分かりやすくていいのではないかと感じております。なにしろ、歴史的分野が一番発行者が多くて、比較しているだけで面白くなるというか、とても楽しくなるというか、そういう感じでした。今、石本委員からもありましたが、

私は東京書籍の年表が一番分かりやすかったような気がいたします。ただ、全体的なバランスを考えた時に、帝国書院が立川の子どもたちにはとても合うというように感じました。

以上でございます。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 私は、今、2者で悩んでいます。帝国書院と東京書籍です。帝国書院は、私はあまり歴史が得意ではなかったのですが、帝国書院の教科書は、章が変わる時にタイムトラベルが出てきてQRコードでいろいろ見られる、見開き1枚の絵で、この時代はこんな感じというのが分かり、全体をつかむことができ、歴史が苦手な人にとってはそれがとても大事だったので、このタイムトラベルがものすごくいいと思いました。もう一つは、章の最後の振り返りのページが見やすく、思考ツールの使い方なども載っていて分かりやすいと思いました。

東京書籍は、QRコードでチェック&トライが付いているので、自分でQRコードを読み取れば復習ができ、また、振り返りのページが章の最後にあるので、自分で復習ができ、自ら学ぶことができると思いました。

以上2者です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 私も、東京書籍と帝国書院で今比べているところです。歴史は発行者がたくさんあるのですけれども、目的に応じて編集されているのが歴史ではないかと私は思っているのですが、歴史とは、とか歴史を学ぶ意義、というのを各者がどう考えているのかを最初に比べてみました。そこで一番納得感があったというか、なるほどと思ったのが帝国書院の書き方で、多角的に考える材料を提供しています、という書き方でした。権力者だけでなく、庶民も歴史をつくってきたということで、バランスよくいろいろな要素が入っていると思いました。子どもたち自身が、未来のために自分で歴史をつなげたり解釈したりするんだよ、といった感じのことが書いてあって、いいと思いました。

ただ、古い学力観なのか分からないのですが、東京書籍は圧倒的に歴史の流れが分かりやすく、流れを頭に入れるということは、全体を俯瞰して把握するにはすごく優れていると思いました。ただ、最初に示した基準のように、歴史を学ぶのではなくて、歴史に学んでほしい、これからの社会で対話する方向に開かれているものがないと思うので、もう少し考えてみたいと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。では、私からは、社会（歴史的分野）の選定のポイントについて少しお話をいたします。

歴史的分野として大事にしていること、これは文化史、地域史、社会史の扱いから日本の伝統文化の理解を促進できること、そして多様な資料から1つの単位を通して各時代の歴史

的背景をつかみやすいこと等がポイントとなります。その上で、先ほど小柳委員からも説明がありましたが、単元の導入部分で各時代の歴史的背景の概要がつかみやすいのはどの教科書であるかも選定のポイントとして考えているところでございます。

私からは以上でございますが、皆さまから追加のご説明等はよろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○栗原教育長 それでは、次に移ります。社会（公民的分野）となります。

これにつきましても、石本委員よりお願いいたします。

○石本委員 公民は導入が大事だと言われているそうですが、各者ともとても見やすいとまず思いました。ページの中にすっきりと学習内容が整理されています。特にそう思うのは東京書籍と帝国書院でした。地理的分野と同じように、東京書籍は導入が丁寧で、確かめよう、振り返ろう、深めようというような形で、段階を踏んで学習が進むようにできていると思いました。帝国書院も導入がとてもきれいで、資料がとても分かりやすく、見やすく、だいたい2ページぐらいですっきりと整理されていて、現代的な諸課題にも向き合おうとしているという印象を受けました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 私は、実は3者で悩んでおります。東京書籍、教育出版、帝国書院です。どれもやはり捨て難くて、例えば教育出版の学び合えるという感覚がすごく良かったと感じています。帝国書院はとても分かりやすく、意欲的に学びに向かうというところもありますし、東京書籍はとても整っている教科書であると感じております。もう少し考えたいと思います。

以上でございます。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 私は、帝国書院と東京書籍で悩んでいます。帝国書院に関しては、図やグラフが多いので、結構見ていて飽きないと思いました。LGBTQ+も入っていて、かつそのことに関しての解説もあるのが帝国書院だったので、やはり現代の問題を知るにあたってこういう用語の解説があるのはいいと思いました。それから、帝国書院は、公民って何だといったことをページの最初でまとめているのですが、すごくそれも分かりやすかったです。東京書籍も、公民って何だというまとめを最初のほうにされていて、それも見やすかったのですが、18歳へのステップのコラムで結構身近で分からないこと、例えば、「契約って何だろう」「契約はこういうふうにして、だまされないように」などといったことが書いてあり、身近なことが書いてありいいと思いました。それから、見出しが見やすい印象があります。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 私は、帝国書院がいいと思いつつ、皆さんの感想を聞いていたら、もう一回全部見たいと思ってしまいました。子どもたちと一緒に社会をつくっていく仲間として信頼して、課題を教えてくれるなどというのは帝国書院から一番感じたので、私が中学生だったら帝国書院の教科書で学びたいと思いました。こういうことに課題がありますということまでは全ての教科書に書いてあったのですが、課題として認識しているけれども、こういう事情があって進んでいないというところまで結構書いているという印象がありました。例えば、1票の格差のところでは、選挙制度の改革は国会で行われるため、政党や現職の議員の利害が対立しやすく進みにくいのが実情です、とまで書かれていて、では、その上で具体的にどうするか、解決しようとした時に何が障壁になっているかが書かれているというのは、いろいろな立場で考えやすくいいと思っています。

もう少し検討したいと思いました。以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。私も、社会（公民的分野）の選定のポイントを少しだけお話しします。

公民的分野として大事にしていることは、地理や歴史の学習とのつながりが分かりやすいということ、そして現代の諸課題に対して多様な捉え方ができていること、導入部分で興味を持たせることが大切であり、そのようなことに丁寧な教科書、そういったところをポイントとしております。

私からは以上となりますが、皆さまから追加のご説明はよろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○栗原教育長 では、続いて地図でございます。

では、これにつきましても、石本委員よりお願いいたします。

○石本委員 地図は、とにかく見やすいのが大事だと思うのですが、どちらもとても鮮明で見やすく、昨年の小学校の教科用図書の選定の時も悩んだのですが、もう少しお時間を頂きたいと思っております。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 私は、大変申し訳ないのですが、まず見た目でなじみがあるという点で帝国書院がいいと思っています。自分がそういう形のものを目にしてきたためであり、例えば本当に立川の子どもたちに合っているかどうかというのは、正確に言うと、分かりません。両者ともよく研究されていると思うのですが、圧倒的に帝国書院が見やすいというように感じてしまうことが事実でございます。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 地図に関しては、帝国書院を推します。他者と比べて写真や絵が多かったという

のと、加えて個人的には教科書の裏に QR コードを使おうというので、データがまとまっていて、資料には、ここから QR コードで飛べるよというのがあって、私は教科書をぱらぱらと開くことが嫌なので、教科書の裏から QR コードで読み取ってみることができるのは便利だと思いました。それだけではなく、やはり写真や絵が多いということは、地図を学ぶ上では大事だと思います。それが、こんなところに行ってみたいな、調べてみたいなと、そういった興味の導入になると思いますので、帝国書院がいいと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 私も悩んでいるというか、もう帝国書院に見慣れてしまっていて、子どもたち目線で見られていないので、しっかりと縮尺やどの程度資料に差があるのかをもう少し丁寧に見たいと思います。すいません。

○栗原教育長 ありがとうございます。では、私からも、地図の選定のポイントを若干お話しします。

地図で大事にしていることは、まず最新の資料が豊富であること、そして幅広い学習に活用できることです。地理的分野だけでなく、歴史や公民でも活用できる資料が豊富であることも選定のポイントしております。

私からは以上でございますが、皆さまから追加のご説明はよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○栗原教育長 では、次に移ります。次が数学でございます。

では、こちらにつきましても、石本委員よりお願いいたします。

○石本委員 東京書籍は、小学校との兼ね合いもあるのですが、系統性ということを考えると使いやすいのだろーと思います。教育出版は、章末というか、単元というか、振り返りがとても充実している、数研出版も、章末の振り返りがやはりしっかりしており、以上3者で考えたいと思っています。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 数学に関して、私は東京書籍が一番いいと思っています。新しいことを学ぶということはもちろんなのですが、やはり小学校で学んだものを前提として進んでいくというのが数学にはあると思っているため、小学校で使われていた教科書が理解しやすいと感じられるようであれば、東京書籍の一本化がいいと感じました。

以上でございます。

○栗原教育長 ありがとうございます。

小柳委員、続いてお願いいたします。

○小柳委員 数学に関しては、3者で考えています。東京書籍、学校図書、新興出版社啓林館です。これは、中学1年生の空間図形のページが見やすいかどうかで比較しました。東京書

籍さんは、QRコードを読み取ると見やすい図形が出てきて、開くと中が見えて分かりやすく、図形を自分で見る角度を変えられることができるので、すごくいいと思いました。

同様に、学校図書も、クロカンブッシュのようにシュークリームが三角すいに並んでいるのですが、イメージしやすいものを使って図形を学ぼうとしている、これで頑張っただけという感じがします。

あと、新興出版社啓林館は、QRコードの中身が分かりやすく、補充問題なども豊富だったのでいいと思いました。図形に関して、図形を展開するというのは難しいと思うのですが、東京書籍はQRコードからぐるぐる見られるのですが、新興出版社啓林館はごみ取りローラーを開いたら円柱であるとか、円すいの中に水を入れてそれで表現するなど、あれやこれやと工夫していて、分かりやすいと思いました。

以上3者で考えています。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 数字アレルギーのような感じで、私は数学がすごく苦手なのです。毎時間、何の役に立つのだと思いながらやっていた私としては、大日本図書の読み物をすごく興味深く読ませていただきました。最初にコラムだけ全部読んでしまって、学び直しをしたくなりました。生活とのつながりが分かる読み物が本当にたくさんありまして、仕事の中の数学やもっと数学の世界へと、数学が分かるとこういうようにものが見えるのかと、とても興味深く読ませていただいて、私が学び直すなら大日本図書で学び直したいと思いました。

次に興味を引かれたのは東京書籍で、これも読み物がやはり充実していました。すごくいいと思ったのは、読み物の中に問題があり、栄養士さんとして計算してみようとか、単元の導入もスムーズに、こういうことを知りたいな、解いてみたいなと思える導入でした。気が付いたら手を動かして計算してできていて、解けたのです。それで改めて、導入でできたという感覚が持てることはすごく大事だと感じていましたら、調査研究部会の調査結果で、東京書籍は簡単な問題が多いと書いてあったので大分がっかりしましたが、苦手な子がくじけずに取り組める感じがとてもいいと思いました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。では、私からも数学の教科書の選定のポイントをお話しします。

授業だけでなく、自学自習をする力を数学で身に付けていただきたいということ、それと残念ながらやはり数学が苦手な生徒も多いというところで、学びの意欲を持ってもらいたい、それにはどれが一番適しているかということも考えました。また、小柳委員からデジタルコンテンツのことがありましたけれども、数学の自学自習で、もちろんデジタルコンテンツは授業の中でも使うこともあるかもしれませんが、家に帰ってきて開いて補充問題を解く、解説を見るということも多いと思います。その辺りで生徒が使いやすいのはどれかということを選定のポイントにしたところでございます。

ほかに皆さまから追加のご説明はよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○栗原教育長 では、次に移ります。次は理科でございます。

では、こちらにつきましても、石本委員よりお願いいたします。

○石本委員 まず、東京書籍は、学習の流れの見える化、今、大事だと言われている探究学習をサポートするような工夫がたくさんされていると思いました。もう一者は教育出版です。探究の過程というのでしょうか、子どもたちが、今、まさに自分で取り組んでいけるような、栗原教育長が数学の部分でおっしゃっていたような視点が大事かなと思います。理科は興味がとても大事ですし、自分で取り組んでいけるような仕組み、その辺りをポイントにもう少し検討したいと思います。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 私は、理科は、実験を重視したいと思っております。その辺りで一番丁寧、またこういう危険があるとか、実験の仕方を丁寧に書いている感じたのは、東京書籍です。それから、やってみたい、見てみたいというような気持ちにさせてくれたのは教育出版ではないかと感じました。ただ、小学校の理科の場合は東京書籍を使っているというように考えると、東京書籍がいいかと思っております。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

小柳委員、続いてお願いいたします。

○小柳委員 理科に関しては、自分があまり得意ではなかったもので悩んでおり、考え中です。東京書籍は、防災特集などの読み物が結構多くて、調査研究部会の調査結果にも載っていたのですが、そこから興味が湧くといういいなと思いました。教育出版は、目次がシンプルで分かりやすいと思いました。新興出版社啓林館の1年生の気体の実験のページを見たのですが、気体の集め方のチャートや絵が分かりやすく、気体の性質一覧なども分かりやすかったので、もう少し別の実験も見てみて決めたいと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

では、続いて、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 理科は、文章での説明という意味では各者であまり差を感じなかったのですが、東京書籍のレイアウトが一番洗練されていると思いました。ほかの教科もそうなのですが、理科において違いを示すといったことは発行者の得意分野なのかなと思いました。一番差を感じたのは、先ほど伊藤委員のお話にもありましたけれども、実験のページです。背景が違う色になっていて、一目で実験ページと分かり、何を準備すべきか図やイラストで一目で分かり、必ず上から下に1、2、3と並んでいて、同じページで、コマ割りのように1、2、3の後に4が上に来るようになっていないので、実験中はいろいろなところに

視線を動かさないといけないと思うのですけれども、今はどこをやっているんだと迷子にならないというのはすごくいいと思いました。視線を動かすことで集中が難しくなるタイプのお子さんは一定数いらっしゃると思うので、一番分かりやすい教科書がいいと思いました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。私からも理科の選定のポイントでございます。

複数の委員からお話がありましたけれども、実験の方法が見やすいものがどれかということと、数学と同様でやはり自学自習のためのデジタルコンテンツ利用の点についてもポイントとしました。加えて、教員側の視点になりますけれども、経験が豊かな教員でも若手の教員でも授業をしやすい教科書であるということ、調査検討部会等の意見も参考にして、それがどの教科書がいいか考えたところでございます。

ほかに皆さまから追加のご説明はよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○栗原教育長 次に移ります。次は音楽（一般）でございます。

では、こちらにつきましても、石本委員よりお願いいたします。

○石本委員 二者択一なのでどちらかということになると思うのですが、それぞれ特徴が違って出てきました。教育芸術社は、今まではそうではなかったと思うのですが、今回はとても新しい曲がたくさん入っていて、子どもたちは楽しくできるだろうというように思うのですが、今までのオーソドックスな教材の作り方は教育出版だと思っていたので、どちらを取るかまだ決めかねておりまして、感想です。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 私もどちらを選ぶか、とても決めかねております。両者とも、何年か前からですが、毎回かなり工夫をされています。読みやすく、また新しい曲なども入っているという形で、今の子どもたちも受け入れやすい教科書になっています。ただ、いろいろなご説明を受けた中では、教育芸術社のほうが新しい内容が多く含まれているという気がいたします。

以上でございます。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 教育芸術社のほうが、新しい曲をいっぱい入れていて、特に1年生の教科書の76ページに「水曜どうでしょう」という北海道で放送されているテレビ番組の曲が入っていて、これを歌うんだと驚きました。すごく今風というか、新しい曲が入っていて、私は見ていて楽しかったです。あと、ページは忘れてしまったのですが、ポピュラー音楽のジャンル分けがしてあって、音楽に詳しくない私にはとても勉強になりました。1年生の教科書の68ページに、日常の音に注目しようなどと、身近なところに目を向けるということが書いてあって、教育芸術社にしました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございました。

それでは、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 私は、音楽の中高の教員免許を持っているだけなのですが、第一印象で、ほぼ週に1時間でこの量をどうやって教えるのかなと思いました。学問的な納得感としては、自筆譜があったり、採譜されたものがあり、音楽の創作も言語のイントネーションから作るようにしていたりして、音楽民俗学を専攻していた私としては、教育出版がいいと思いました。ただ、音楽の「楽」は楽しむという意味であって、学ぶではないので、何を経験してほしいかと考えた時に、楽しそうなのは教育芸術社のほうだと思いました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。音楽（一般）の選定ポイントを私からも一言申し上げます。

生徒の視点に立つと、目当てや学習の進め方、教科書内の楽譜や図等が生徒にとって分かりやすい記述になっているのはどちらであるかということや、生徒の情操表現を促す表現や記載が用いられているかどうかということ、合唱や創作、鑑賞の各活動が関連した内容になっているか、そういったところを少しポイントとして見たところでございます。

追加のご説明はよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○栗原教育長 では、次に移ります。次は音楽（器楽合奏）になります。

こちらにつきましても、石本委員よりお願いいたします。

○石本委員 先ほども申し上げたのですが、どちらも本当に優れた内容の教科書だと思います。器楽で扱うのは、いろいろな楽器があるのですが、各自が持っているとなると、どうしてもリコーダーで、中学生になるとアルトリコーダーが圧倒的に使われます。左手から入るのですが、そういう系統性にのっとった教科書の進み方で、合奏が中心になって、堀切委員もおっしゃっていましたが、楽しい合奏ができることが大事だと思っています。どちらも優れていますが、もう少しお時間を頂いて、どちらかに決めたいと思います。

○栗原教育長 ありがとうございました。

続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 立川市の場合、音楽の専任の先生がいらっしゃいますので、その方たちが使いやすいということ、また一般の音楽の教科書との整合性などがあると思います。例えば、音楽（一般）で教育芸術社であれば、器楽合奏の教科書も教育芸術社でよろしいのではないかとこの選び方も一つの方法ではないかと思っております。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 私は、教育芸術社を推します。検討委員会の報告書に「さまざまな音楽文化に触

れられる教科書」と書いてあるのですが、確かに拝見してみると、ワールドワイドに、国内だけではなくて海外の楽器の写真などもあり、さまざまな音楽文化に触れられるのは、確かにそうだと思います。あと、全体的にシンプルで見やすいと思いました。あまり音楽には詳しくないのですが、選定検討委員会や調査研究部会で出された意見などを見ると、教育芸術社は楽譜がギターのパジションで表記が分かりやすく、支援を要する生徒にも分かりやすいということが書いてあり、そういうところもいいと思いました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 私も教育芸術社がいいのではないかと思います。器楽は歌うだけではなくて、楽器の操作が一つそこに挟まるので、楽しむまでに、例えば知らない曲で楽譜を読んで楽器の操作も覚えてとなると、それだけですごく時間がかかるし、人間はほぼ3日で忘れると言われているので、思い出すところから始めなければいけないとなると、限られた時間の中で楽しんでもらうには知っている曲がたくさん入っているというのはすごく大事なことだと思いますので、知っている曲がたくさん入っている教育芸術社を推したいと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。私からも音楽（器楽合奏）の選定のポイントでございます。

先ほどの音楽（一般）と重複する形になってしまっていますが、目当てや学習の進め方、教科書の楽譜や図等が生徒にとって分かりやすい記述であること、各学期が基礎から発展へと順序立てて学ぶことができる内容となっているか、その辺りがポイントとなっております。何人かの委員さんからもありましたけれども、リコーダーの指の使い方など、そういった部分の表記が、どちらが見やすいのかということもポイントにいたしました。

皆さまから補足等はよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○栗原教育長 では、次に進みます。続いて美術でございます。

こちらにつきましても、石本委員よりお願いいたします。

○石本委員 いろいろな美術の内容が1冊の教科書の中に凝縮しているのですが、紙の質の違いまで工夫しているという光村図書出版の教科書にはびっくりしました。なるほど、手触りというものもあるなと思いました。あと、もう一つ選ぶとすると、日本文教出版です。発達段階というよりかは、豊かな感性に呼びかけてくるような教科書だと思っています。しかし、今のところ光村図書出版が私は一推しだと感じています。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 私も光村図書出版がいいのではないかと思います。見ていて、素晴らしい、いい

など感じる感覚を、とても大事にされているような気がいたします。開隆堂出版は一つ一つの作品のインパクトの強さが出ているように思いますし、日本文教出版も発達段階に応じたというところもいいとは思いますが、先生が使いやすいということから考えると、光村図書出版がいいのではないかという気がいたします。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

続いて、小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 私は、今、2者に絞っています。開隆堂出版と光村図書出版です。開隆堂出版は見るからに表紙がポップで、かなり興味をそそります。こんな教科書が何十年か前にあったらなと思いました。デザインや絵が実生活にどう反映されているかという写真や解説が多くて、デザインや美術を身近に感じることができると思いました。

一方、光村図書出版は、作業が別冊でまとめられていて、いいと思いました。加えて、写真がとてもきれいで、数が多いので、見ていて楽しく、途中で和紙が出てくるのもいいです。また、裏のバーコードにまで絵が描いてあってかわいいなど、小さなところまでこだわっていると思いました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

それでは、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 小柳委員が日常に生きるような工夫がある教科書があったということで、それをもう一回見たいと思いました。今のところ、私は光村図書出版がいいと思っています。作品を中心に据えていて、作品の世界に引き込まれるようなつくりになっているので、ミュージアムショップに売っているようなクオリティーだと思いました。なので、私はこの教科書を欲しいと思いました。ただ、日常生活に生かすという視点でもう少し見てみたいと思いました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。私からも美術の選定のポイントでございます。

確かに美術の教科書は見ていて楽しく、見ていて飽きないです。複数者が同じ作品を取り上げているのですが、載せ方の工夫というか、取り扱い方で、こちらの教科書のほうが、迫力がある、生徒が興味を引くなどといった違いは確実にあったため、その辺りをポイントにしたところでございます。

では、次の教科に移ってよろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○栗原教育長 次は保健体育でございます。

では、こちらにつきましても、石本委員よりお願いいたします。

○石本委員 保健体育は、大日本図書がとてもカラフルでインパクトがあり、子どもたちの興味を引くなどという印象があります。また、ユニバーサルデザインに配慮しているところは、

特別支援教育を意識しており、良い教科書だと思います。大修館書店は、とても見やすいです。それから、感覚ですが、新しい視点から、今の時代の急速な変化をうまく捉えていており、多様性ということも考えて、以上の2者で検討しているところです。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 保健体育に関しては、現代は学ぶことが多くなり過ぎているのではないかという気がいたします。ですから、どの会社も字が小さくて、いっぱい詰め込まれています。多様性、スポーツ、性といった、いろいろなテーマを全部保健体育の教科書に入れるのはなかなか難しいだろうし、先生方も教えるのがなかなか難しいのではないのでしょうか。いろいろな意味で問題点がいっぱいある教科だと思っております。

例えば、最近のだいたいの教科書では、熱中症予防に関しての表現として、塩分を無理して摂るように、とは書いていません。それは大分浸透してきたかと思います。昔の教科書では、塩分を補給しなさい、など書いてある教科書があったりしたのです。今の教科書では、ほとんどは塩分を摂るように、とは書いてないのですが、摂るなども書いてないのが少し不満です。予防に関しては、塩分は要りません。治療・処置に関しては塩分が必要だというような、微妙に変わってくるところを全部入れようとすると、なかなか難しくなってしまうので、内容的に多少見にくくても、いろいろなことが書いてあるのが大修館書店であるという判断でございます。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 選ぶのが、とても難しく、また変わってしまうかもしれませんが、2つに絞っています。1つが大修館書店で、もう1つがGakkenです。Gakkenは、ウォームアップ、エクササイズ、学びを生かすと分かれていて、授業の運びとして分かりやすいと思いました。漫画の絵も親しみやすくいいと思いました。大修館書店は、目次が体育理論と保健とで分かれていていいと思ったことと、42ページで性的マイノリティーについても言及していて、今は中学生くらいになると性自認や性的指向を意識する生徒もいると思うので、こういうことを知ることは大事だと思います。

以上2つですが、選定検討委員会の資料に、東京書籍にも性の多様性についてのテーマが取り上げられていると書かれているので、もう少し見てから決めます。以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 学ぶことが多くなり過ぎていて、読んでいるうちに何の教科書を読んでいるのか分からなくなりました。公民なのか、理科なのか、家庭科なのか、その辺が教科横断的と言う前に、もう少し整理できないのかなと感じました。内容に関しては少し違う方向に興味が移ってしまっていたので、今日の協議も踏まえて、さらに比較研究を進め、検討したいと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。

今、堀切委員から保健体育がさまざまな分野まで及んでいるということでございますが、いったんは各者とも学習指導要領にのっとった保健分野の記載にはなっていると思いますが、もしかしたら分野自体が幅広くなっているのかもしれませんが。他教科といろいろに関連していることもあると思います。

私の選定のポイントでございますが、共生社会や性の多様性という現代的なテーマが取り上げられているか、またそういったことを大切にしているかということが1つです。また、学習への興味関心が広がるように発展的な内容や、学びが深まる内容を取り扱っているかということも重視をしたところでございます。そんなところを選定のポイントとしております。皆さまから補足はよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○栗原教育長 では、次に移ります。続いて技術でございます。

こちらにつきましても、石本委員よりお願いいたします。

○石本委員 授業のコマ数が少ない教科なのに、やはり盛りだくさんなのだなと感じました。

大変だと思います。見た中では、それこそ幅広いですが、先生方がきつと上手に工夫されて使い、子どもたちが分かりやすいとなると、SDGsの配慮もあるし、写真も多いし、情報モラルまで触れているし、興味を引くような工夫もされているため東京書籍かなと今は思っております。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 私も東京書籍が一番見やすくて教えやすいという気がいたしますけれども、開隆堂出版のイラストがなかなか分かりやすくていいですので、もう少しだけ検討したいと思っております。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 私も悩んでいますが、東京書籍が一番分かりやすかったと思います。開隆堂出版も説明が分かりやすかったと思います。220ページの双方向性のあるコンテンツとはという、ピンポイントのところを見比べてみたのですが、東京書籍のほうがサーバーを使ったコンテンツはどうやって送受信されているかなど、少し難しい内容ですが、そういう説明が結構簡潔にされていて、全体的に図が見やすいということと、そのサーバーを使って例えば問題解決のためにどんなことをやればいいのかということで、翻訳アプリを作ってみようとか、デジタルカメラで撮ると野菜などの価格が出るアプリを作ってみようとか、防災マップづくりをしてみようなど、そういう技術を使って世の中に役立つことができるよというようなことが書いてあるのが東京書籍だったので、いいと思いました。しかし、開隆堂出版も知的財産についての説明が詳しくて分かりやすかったので、もう少し2者で比べてみようと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 先ほど石本委員もおっしゃっていましたが、時間がない中でこれだけの内容をどうやって教えるのかというところと、技術と家庭というのは私にとっては全然違うのですが、教科としては一緒にされていて、いつも技術が足を引っ張っていた私は、なぜ教科を分離しないのかという疑問もありながら、苦手ながらも分かりやすいと思ったのが東京書籍でした。やはりある程度作業するにあたって理科的な知識もすごく必要だと思いますので、一番苦手ながら分かりやすいのが東京書籍と思いました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。では、私からも技術の選定のポイントを、一言だけでございます。

生徒が実生活に生かせる、問題解決方法を見つけられるような教科書はどれかということです。写真をうまく使ったり、実生活の問題解決のイメージをさせやすく、技術科の学習への意欲、興味を喚起させるものはどれか、そういった視点で教科書を見ております。そこが選定のポイントとなります。

皆さまから補足はよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○栗原教育長 では、次に移ります。家庭となります。

では、石本委員よりお願いいたします。

○石本委員 家庭は熾烈（しれつ）な戦いだと感じています。東京書籍は見やすいですし、主体的に課題解決をしていくことを身に付けられるような工夫をされているということです。教育図書は、家族、地域、世界がどういうふうにつながっていくのかということが学べます。開隆堂出版は、自立と共生、命と暮らしと、各者魅力があるので、もう少し悩みたいと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 私も同様です。それぞれにいいところがあります。ただ、できれば技術と家庭は同じ発行者のほうがいいという気がいたします。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 調査研究部会の調査結果にも少し載っているのですが、私は帯や和服などのことが書いてあるページを比較してみて、開隆堂出版と東京書籍を選びました。日本人しか着物は着ないから結構大事かなと私は思っていて、帯や和服について詳しく載せているのは開隆堂出版です。東京書籍は、日本国内のいろいろな地域の布地などを載せていて、和服の畳み方や、世界の民族衣装などにも触れていて、ワールドワイドな視点が少し開隆堂出版より強いんです。だけど、開隆堂出版は和服について詳しく載せているので、どうしようかと悩んでいます。もう少し広げて比べてみたいと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。それでは、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 私は、開隆堂出版がとても好きで、参考というのがいろいろなページに載っています。豆知識のような感じで、本当に参考になります。日常生活に今すぐ生かせるいろいろな事例が書いてあって、知っていると困った時に役立つような情報も書いてあり、本当に家庭に1冊あるといいのではないかと思います。

2つ目は、開隆堂出版には、ヤングケアラーについて書いてありました。しっかりと見開き2ページを使って、当事者の言葉や、今立川市でも力を入れていますけれども、こういう時に市役所のこういう窓口があるというのを一緒に伝えてもらうのもすごくいいと思いました。LGBTQ+についてもきちんと書かれていて、開隆堂出版を推したいところなのですが、一つだけ2次元コードからの情報がいまひとつというところで、そこだけが惜しいと思いました。

東京書籍も内容的にはとても十分で、構成が分かりやすいというのがございました。調査研究部会の調査結果にも書いてあったのですが、立川市は講師の先生が多いということで、時間がない中で経験が少ない教員でも教えやすいということは外せないと思います。QRコードも東京書籍の教科書は量もあるけれども質もいいと感ずるので、もう少し考えたいと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。では、私からも家庭分野の選定のポイントです。

今、堀切委員から、どういう教員が多いかということがあったのですが、やはり指導経験が少ない教員でも、時間講師でも、授業が組み立てやすいというのはどういう構成の教科書であるのかということです。それと、生徒の視点からすると、やはり毎日私どもは生活をしているわけでございますので、実際の家庭生活に生かせる資質・能力が身に付くのにふさわしいのはどの教科用図書なのか、どの発行者なのかと、その辺を選定のポイントとしております。

では、次に移ります。続いて外国語（英語）でございます。

こちら石本委員よりお願いをいたします。

○石本委員 各者ともとても見やすく、何か楽しそうだと感じました。教科書の大きさは東京書籍と三省堂が少し大きいです。大きくなると重くなって、持ち運びが大変だと感じていますが私は、その東京書籍と三省堂のどちらかがいいと思っています。当然ですけども、会話が大事で、つながる体験を積み上げていくのだろうし、そういう工夫を東京書籍はよくされているなと感じております。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 各者かなり力を入れていらっしゃるのとは分かるのですが、私は東京書籍か三省堂という気持ちでおります。誰一人取り残さない英語教育を目指した教科書という東京書籍に引かれますので、東京書籍を推したいと思っております。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 私は3者を選んでいきます。東京書籍、三省堂、光村図書出版です。どこの発行者も見開き1ページで文法の説明などを掲載しているのですが、光村図書出版は教科書のサイズがいいと思いました。東京書籍は、選定検討委員会の報告書にもあるように、誰一人取り残さない英語教育を目指した教科書ということで、教員が新たにワークシートを作成しなくても教科書のみで簡潔に授業ができるとか、「聞く」「話す」「書く」がコンパクトにまとまっていると、先生が使いやすい教科書という印象を受けました。三省堂を推す理由は、過去形と現在完了形を絵で示していて、現在完了形などは特にすごく難しく、説明されてもよく分からないとなってしまうところだと思うのですが、これを絵で説明していたのは三省堂です。何となく分からなくても絵で描いてくれれば言葉で説明されているよりは分かりやすいと思うので、その点で三省堂さんを推しています。以上3者です。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 私は、デジタルコンテンツを主に見ました。私は、教科書だけで英語の勉強をしていました。昔はCDを書店で売っていました。CDを買ってきて、再生したり一時停止したりしながら勉強していたので、QRコードからそれができて、東京書籍がすごくいいと思ったのは、訳を出せたり隠したり、またカラオケの字幕のように今はどこを読んでいるのかというのが分かるようになっていきます。英語というのは、やはり習っていないと焦ります。周りに英語を話せる友達がいたりすると、とても焦るので、コンパクトに内容が絞られており、取りあえずこれをやっておけばという教科書はとてもいいと思いました。私は英語を授業でしか勉強していなかったのですが、その後でやはりいくらでも必要な時に単語などの知識を増やしていけば自分は大丈夫だったという経験もあるので、誰一人取り残さない英語教育を目指している東京書籍を推したいと思います。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。私の英語の選定のポイントです。

4技能5領域と言われる「聞く」「読む」「話す」、話すことはやり取りと発表がありますが、それと「書くこと」の活動がバランスよい教科書はどれかということです。それと、今、堀切委員からあったデジタルコンテンツですが、今はQRコードを読み取るとそのまま発音が分かりますし、教科書の内容全てをネイティブで聞くことができ、堀切委員はCDでしたけれども、私たちの時代はカセットテープでございました。そういった操作性も、生徒にとっては自宅に戻っても自学自習できるポイントになると思い、選定のポイントといたしました。

皆さま、補足はよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○栗原教育長 では、最後は道徳でございます。

では、こちらも石本委員よりお願いいたします。

○石本委員 実は左手のピアニストのための曲は何曲も作られているのですが、そのお話が出てくるのが東京書籍です。舘野泉さんというピアニストがいるのですが、病気で右手が使える

なくなってしまったこの方の話が載っていると思ったら、阿部詩さんが載っていきまして、教科書の内容というよりも、なかなか幅広く取り扱っているなと東京書籍を見て思いました。ただ、道徳の教科書は、読んでみると光村図書出版が頭一つ出ていると、私は感じてしまいました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 道徳は点数を付けるわけではありませんので、子どもたちが何らかを感じてもらえる内容が多い教科書、また、全体的な流れが分かりやすい教科書がいいかと思いました。確か以前は「はしのうえのおおかみ」は東京書籍ぐらいしか載せていなかったのですが、今は各者がいろいろ工夫して、小学校から発達した、つまり大きくなった自分たちがどう考えるかというところをかなり意識して書いてくださっているように思っております。一応私は光村図書出版がいいのではないかという気がいたします。

以上でございます。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 私は、光村図書出版と東京書籍で大変悩んでいます。道徳という教科は何を勉強しているのかと途中で分からなくなってしまうと思っています。授業中話を読んでいるだけになったり、あまり考えられなかったりするのですが、光村図書出版は「道徳で学ぶ22のキーワード」が毎年載っているから迷いません。この物語は何を伝えているのかも分けられているので、明確で分かりやすいです。とはいいいながら、道徳は最初のとっかかりが興味を引くものであることも大事だと思うので、東京書籍はヒカキンやティモンディとか、NHKの「コロ部！」とか、スーパーボランティアの尾畠さんとか、結構最近の話題が載っていて、子どもたちの興味を引くのではないかと思います。光村図書出版と同様に、最後のほうにテーマ別でどんなことを伝えたいかということが書いてあるのでいいと思います。2者でもう少し悩みます。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。続いて、堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 そもそも道徳を何のために勉強するのか分からないです。今も学習指導要領に私はとても疑問があって、国や郷土を愛する態度とか、日本人としての自覚など、こういうものはどうやって扱うのだろう、本当に誰一人取り残さないとなるためには扱い方にかなり気を付けないといけないのではないかと、意図は分かるにしても、先生方は教えることが大変ではないのかと思うことが多いです。

国の文化についてというところで止めてあるのが、光村図書出版と東京書籍で、私が中学生ならこの2つなら、あまり疑問を持たずに取り組めると感じました。ただ、私も光村図書出版が頭一つ出ていると思う点があり、最初に私の中の基準の1つ、良い社会をつくることに貢献するというのを学ぶために、対話の仕方や、1年生の135ページに人権の説明が書いてあり、人権が大事ですということは、各者説明しているのですが、そのためには自分の

人権と同じようにほかの人が自分らしく生きるのを尊重しなければならないと書いてあるところ。人権と人権が衝突した時に、弱い立場の人が負けてしまうので、弱い立場の人の人権をより尊重しなければならないと書いてあり、すごく素晴らしいと思いました。

以上です。

○栗原教育長 ありがとうございます。私の道徳の選定のポイントでございます。

道徳は、教育の中でも大きな問題として、いじめや人権の問題を各発行者扱っています。そのまま読んで自分事として考えていただければ、もっといじめがなくなってもいいと思うのですが、なかなか現実はそうではないということでございます。各者を見ても、同じ作品を扱っているところも多いです。その中で、イラストや漫画、また写真などということで、生徒が見やすく構成されているのはどの発行者なのか、私はその点を一番重要視して選んでいきたいと思っております。

では、以上、皆さまから評価のポイント、またそれと立川市の中学生にとってふさわしい教科書はどちらの発行者かということでご意見を頂きました。最後に何か追加のご説明は皆さまよろしいでしょうか。

〔「ありません」との声あり〕

○栗原教育長 それでは、1 協議（2）についての本日の協議はここまでとし、次回第 16 回教育委員会定例会で再度教科ごとに協議を行い、その後に採択を行いたいと考えております。そういった流れで進めていきますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○栗原教育長 ありがとうございます。それでは、本日の協議については以上といたします。次にその他に入ります。その他はございますでしょうか。

〔「ありません」との声あり〕

○栗原教育長 その他はないようでございます。

それでは、次回の日程を確認いたします。次回第 16 回立川市教育委員会定例会は、令和 6 年 8 月 28 日水曜日 13 時 30 分から 101 会議室で開催をいたします。

これをもちまして、令和 6 年第 15 回立川市教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。

午後 3 時 21 分

署名委員

.....

教 育 長